

都における感染症対策強化のための主な取組

- 平成25年から26年にかけての西アフリカでのエボラ出血熱の流行、平成26年夏のデング熱の国内感染症例発生、平成27年の中東呼吸器症候群(MERS)の韓国での感染拡大など、近年、都民の健康への脅威となる事態が相次いで発生

→ 新たな感染症に対する事前の備えや発生時対応を強化するため、通常の実施に加え以下を実施

①蚊媒介感染症対策

②一類感染症等対策

③感染症全般に係る対策強化

④東京2020大会に向けた感染症対策

① 蚊媒介感染症対策

(デング熱、ジカウイルス感染症等の対策)

■ 平時における対策

(1) 蚊の発生抑制対策の推進

- 「蚊の発生防止強化月間」(6月)を設定し、集中的に普及啓発

(2) 感染症媒介蚊のサーベイランス

- 都内25施設(公園等)で蚊の捕集・ウイルス等の保有検査を実施し、媒介蚊の発生状況、病原体の保有状況等を監視

(3) 検査・医療体制の整備

- 海外渡航者等の診療を行う医療機関の連絡会・研修会の開催
- 患者検体の検査体制を確保

■ 発生時における対策

- 蚊媒介感染症対策専門家会議の開催
- 推定感染地における蚊のモニタリング調査及び駆除

② 一類感染症等対策

(エボラ出血熱・MERS等の対策)

■ 患者移送体制の整備

- 指定医療機関への患者移送・受入訓練(医療機関、搬送機関、保健所)
- 感染防止資器材の整備
- 患者移送後の資器材消毒体制の確保

■ 医療体制の整備

- 一類感染症等対応連絡協議会の開催
- 医療機関における防護資器材の充実

■ 遺体搬出時の安全確保

- 遺体搬出等訓練、感染防止資器材の整備

③ 感染症全般に係る対策強化(普及啓発等)

■ 都民等への普及啓発

- 海外旅行者向け、外国人向け多言語(6言語)啓発冊子
- 企業団体・医師会等と連携した職域における感染症対策の推進

■ 医療機関における対応強化

- 感染症診療協力医療機関等における感染防止対策の推進

■ 疫学調査体制の強化

- 感染症発生時の疫学調査において、感染症の種類に応じた対応の迅速な確認や多言語対応を保健所が円滑に行えるよう支援するツールの整備

④ 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた感染症対策

■ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた感染症対策

- 東京2020大会の開催に向けて、関係機関と連携しながらサーベイランスや疫学調査等の感染症対策を強化し、対処要領の策定等を検討

■ 感染症情報センターにおける情報発信の多言語化

- 東京都感染症情報センターホームページで提供している感染症発生状況等の情報を13の外国語に翻訳して発信し、外国人旅行者等への情報提供を充実